

出張エキソアレが再開しました！！



人口減少や高齢化による郊外団地の生活利便性低下・地域コミュニティの衰退・郊外団地周辺を運行する路線バスの輸送需要・運賃収入の減により新たな収入源を得るため乗客とともに貨物の輸送に乗り出し、既存路線の維持をめざしています。

神姫ゾーンバスは、令和4年10月より路線バスが地域の足として重要な役割を担い続けていくために、異業種の事業者間で連携を図り、モノの運搬による新たな収入源を得ながらバス路線を維持し、また、地域にとって必要な生活サービスの充実並びに地域コミュニティの活性化等を目的とした新たな事業として、**移動販売（出張エキソアレ）**・野菜配送をお客様が乗るバスで同時に行う**貨客混載（かきやくこんさい）**事業を行っております。

この事業を各地域へ拡大することでさらに地域コミュニティを高め、地域と共に沿線の価値創造となるまちづくりを目指してまいります。

移動販売（出張エキソアレ）

運行系統 76M 10:40 西神中央駅発 月が丘6丁目行
開催日 令和5年6月～令和5年11月 毎月第一・第三水曜日
開催時間 11:15～12:30
開催場所 月が丘センター駐車場 バス車内にて
出店店舗 エキソアレ西神中央店 協力テナント



新会長就任のごあいさつ



栄駅周辺住民の足を考える会
会長 藤見佳男

この度、栄駅周辺住民の足を考える会の会長に就任しました秋葉台自治会副会長の藤見です。

高齢化社会を見据え、生活に密着した買い物・通院・散歩・外出等の移動の困難な状態を少しでも軽減するために関係機関と連携し、検討・調査を進めたうえで神姫ゾーンバス10系統の運行を推し進め、出来ることから実現してまいりました。神姫ゾーンバス10系統運行は、沿線の秋葉台及びその周辺地区と桜が丘地区の住民にとって日常の買い物・通院などに大変便利になったと思います。

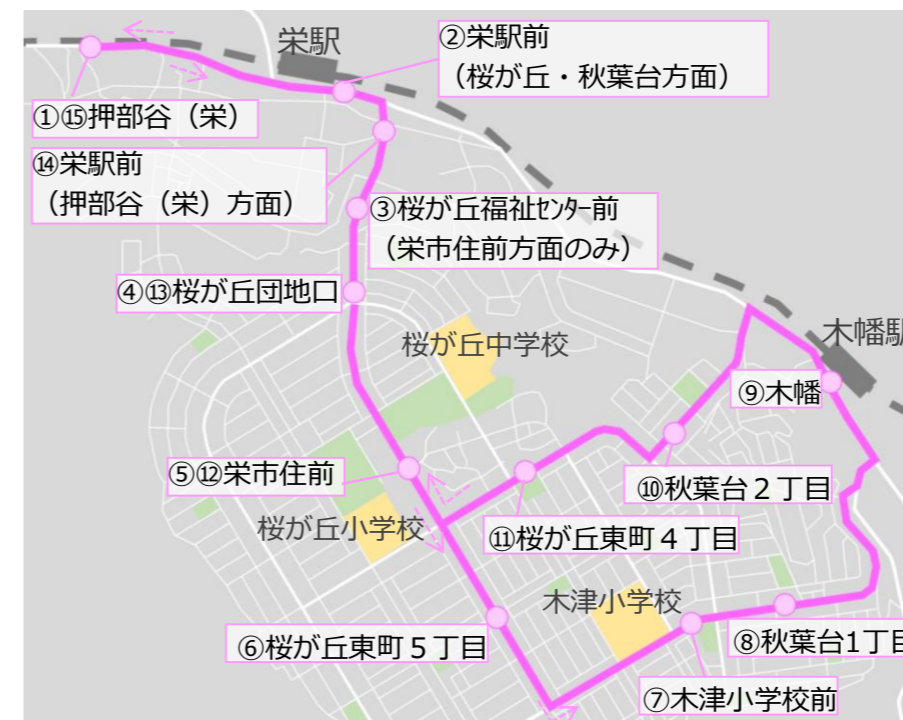
神姫ゾーンバス10系統の運行スタートを皮切りとして、この取り組みで培った経験を活かし栄駅周辺地区の課題解決に努めてまいります。また、持続可能な路線バスの維持に向け、既存の路線バスの利用促進にも努めてまいります。

引き続き、この活動へのご協力よろしく申し上げます。

10系統 さくら・あきばループバスの利用状況



<ルート>



<ダイヤ>

- 平日のみ1日4便運行
- 押部谷(栄)を 8:30、9:30、10:30、11:30発

<1日平均利用者数>

5月：35.9人/日
6月：32.4人/日
7月：36.0人/日

※9～11時台の便に利用が集中しています。買い物など決まった目的での利用が定着しつつあります。

利用者の声が届いています！

- 1時間に1本になったので、買い物などで利用しやすくなった
- 自分たちの要望がダイヤに反映されて嬉しい

令和5年5月28日（日）月が丘地域福祉センターに於いて「栄駅周辺住民の足を考える会」委員並びに神戸市都市局交通政策課、西区押部谷出張所、公共交通神姫ゾーンバス（株）の方々にご臨席頂き、総会を開催しました。令和4年度活動報告、会計報告、監査報告、令和5年度役員選出、令和5年度活動方針、活動計画、予算計画及び会則の一部改正についてすべて承認されました。

（議事の内容）

🌸 1.活動報告

- ①公共交通バスの運行について（10系統の試験運行の実施・評価、本格運行に向けた検討）
- ②足を考える会ニュースの発行
- ③神戸市からの補助金（R4年度：印刷費等135,495円）
- ④会議の開催

🌸 2.会計報告

会計報告後、会計監査役から金銭出納帳、領収書を関係書類と照合し、承認して頂きました。



🌸 3.令和5年度の役員

	藤見佳 男	秋葉台 会	副会長
副会長			
副会長	曾田孝 治	桜が丘ふれあいのまちく協議会	副委員長
		押部谷東ふれあいのまちく協議会	副委員長
	納見 年子	桜が丘ふれあいのまちく協議会	
	松岡康 弘	秋葉台 会	
		月が丘ふれあいのまちく協議会	

🌸 4.活動計画

- ① 神姫ゾーンバス10系統（循環型）を維持・定着していくための利用状況の把握と対応策の検討。
- ② 役員会、運営委員会を毎月各1回開催。
- ③ 足を考える会ニュース（広報紙）を年数回発行予定。

第1次ベビーブームの世代が後期高齢者となる年代となり、75才以上の方が昨年12月の時点で、秋葉台地区は26.7%、桜が丘地区は22.07%、月が丘地区は13.3%、美穂が丘地区は32.3%となります。後期高齢者で元気に活躍されている方は大勢おられますが、老化による体力低下は自然の摂理であり、程度の差はありますが避けられない現実と思います。

今、「栄駅周辺住民の足を考える会」（以下「足を考える会」）が危惧していることは、高齢化がもたらす様々な問題点、例えば

- ①免許の返上による移動手段の制約と、それによる日常生活への影響
- ②一戸建ての場合、家の手入れが困難になる。
- ③ゴミ出し、およびゴミステーションの清掃がきつくなる。
- ④各種地域の行事参加困難による地域交流の制限→孤独化

などがあります。一昔前のように三代以上にわたる大家族であれば、家族同士で助け合うことが可能であり今ほど高齢者問題はなかったと思います。現在、高齢者は夫婦単位の家族構成となり、お互いに助け合う老々介護が主流になってきています。また、配偶者を失った独居老人も増えているようです。ちなみに、一世帯当たりの平均家族数は、昨年12月の時点で、秋葉台地区は2.10人、桜が丘地区は2.19人、月が丘地区は2.23人、美穂が丘地区は1.79人となります。これから推測すると高齢者とは限りませんが1人住まいの方が結構おられ、恐らく大半の方は独居老人と思います。

現実的に考えれば、自身の身の回りのことが十分にできない場合、お子様、親族、介護保険によるホームヘルパーによるサポートなどなど色々対応手段はありますが、対応に限界があり、結局老人ホームなどの施設が最終選択肢となると思います。この施設が、いままで住み慣れた地域内にあれば、多少不便になるかもしれませんが地縁が継続し、人の繋がりが維持できると思います。しかし、施設がいままで住み慣れた地域外にある場合、地縁が失われ、活動的（LINE、Face BookなどのSNSの活用も含む）でない方は、家族および施設のサポートによりますが、孤独な日常を送ることになるかもしれません。

高齢化社会において様々な問題がありますが、「足を考える会」は上述の問題点①の改善を目指しており、まず手始めとして神姫ゾーンバス（株）のご協力、神戸市のサポートにより「桜が丘-秋葉台巡回」（10系統）を実現いたしました。ただ、この成果は通過点に過ぎず、引き続き、地域の実情を踏まえた地域公共交通の課題解決に努めるほか、高齢者が歩きやすい歩道などの整備、これから利用が増えると思われるシニアカー普及に対する環境整備などなど色々検討しなければならないことが多数あります。高齢化全体の問題からすれば小さなものですが、少しでも高齢者の生活改善につながればと思い、皆さまのお力を借りながら賛同団体、交通機関、行政、福祉団体などと連携をとりながら、私たちは日々活動してまいります。

安心して住み続けられる町を目指しています!!

